



上頓野小だより

令和4年度全国学力・学習状況調査の概評について

例年行われている全国学力・学習状況調査が本年度も6年生で実施されました。本年度の調査教科は国語と算数(数学)、理科です。調査の結果、以下のような傾向が見られました。

(国語)



- 「話し言葉と書き言葉の違いを理解する」「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」といった、「言語についての知識・理解・技能」や「読む」領域は成果が見られました。
- 「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」といった「書く」、「話す・聞く」領域について、課題が残りました。

(算数)

- 「被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる」「百分率で表された割合を分数で表すことができる」といった「数と計算」「データの活用」の領域で成果が見られました。
- 「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる」「正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる」といった「変化と関係」「図形」の領域で課題が残りました。

(理科)

- 「昆虫の体のつくりを理解している」「冬の天気と気温の変化を基に、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる」といった「生命」、「地球」を柱とする領域で成果が見られました。
- 「日光は直進することを理解している」「実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」といった「エネルギー」を柱とする領域で課題が残りました。

3教科とも、選択式、短答式の問題に比べて、記述式の問題に課題があります。これら結果を全職員で共通理解し、今後も一丸となってさらなる学力の向上をめざし、取り組んでいきたいと思っております。